

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	2019年8月14日
【四半期会計期間】	第46期第1四半期（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）
【会社名】	株式会社ホットマン
【英訳名】	H O T M A N Co. , Ltd .
【代表者の役職氏名】	代表取締役 伊藤 信幸
【本店の所在の場所】	宮城県仙台市太白区西多賀四丁目4番17号
【電話番号】	022-243-5091（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 伊藤 忠行
【最寄りの連絡場所】	宮城県仙台市太白区西多賀四丁目4番17号
【電話番号】	022-243-5091（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 伊藤 忠行
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第1四半期 累計期間	第46期 第1四半期 累計期間	第45期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年6月30日	自2019年4月1日 至2019年6月30日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	4,769,166	4,867,400	21,041,640
経常利益 (千円)	112,178	114,540	732,702
四半期(当期)純利益 (千円)	66,507	74,013	376,235
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	1,910,645	1,910,645	1,910,645
発行済株式総数 (株)	7,275,500	7,275,500	7,275,500
純資産額 (千円)	6,071,799	6,344,406	6,343,084
総資産額 (千円)	13,674,492	14,058,551	14,063,449
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	9.43	10.49	53.33
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	10.00
自己資本比率 (%)	44.40	45.13	45.10

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績の状況

当第1四半期累計期間における我が国の経済環境は、雇用・所得環境の改善が続く中、緩やかな回復が続くことが期待されますが、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。景気の先行きにつきましては依然として不透明な状況が続いております。

当社におきましても、個人消費の伸び悩みや国政による人件費増加など、厳しい経営環境が続いております。

主たる事業であるイエローハット事業では、異常気象による自然災害をはじめ、季節の節目が曖昧になりつつある昨今、気候変動に影響されない安定した収益体質の構築が最優先課題となっております。

そのような環境の中、当社におきましては、会社方針に『プロセス主義』を掲げ、前々期から着手しております徹底した「経費削減」と「売上総利益率改善計画」の最終年度を迎え、その実現に向けた「過程」を重要視することにより「結果」に結びつけるべく、全社一丸となって取り組んでおります。

当第1四半期累計期間内の出退店はありませぬ。当第1四半期会計期間末の店舗数は、イエローハットが87店舗、TSUTAYAが9店舗、アップガレージが7店舗、カーセブンが3店舗、ダイソーが2店舗、自遊空間が1店舗、宝くじ売場が5店舗、セガが1店舗の合計115店舗となっております。

この結果、当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高は4,867百万円となり、前年同期比98百万円（前年同期比2.1%増）の増収となっております。経常利益につきましては114百万円となり、前年同期比2百万円（前年同期比2.1%増）の増益となりました。四半期純利益は74百万円となり、前年同期比7百万円（前年同期比11.3%増）の増益となりました。増収増益の要因は主として、イエローハット事業において、高粗利である車検等カーメンテナンスの販売が好調に推移したことによるものとなっております。

セグメントごとの経営成績は、次の通りであります。

##### [イエローハット]

当社の主たる事業であるイエローハット事業におきましては、前事業年度より引き続き、車検を中心にカーメンテナンスサービスやハウスカード会員の拡大を強化し、気候変動に影響されない安定した利益を確保することに注力して参りました。また、スタッドレスタイヤの増税前販売へも注力し、売上高は好調に推移致しました。

この結果、当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高3,928百万円（前年同期比4.2%増）、セグメント利益（営業利益）は166百万円（前年同期比8.9%増）となっております。

##### [TSUTAYA]

TSUTAYA事業におきましては、書籍の品ぞろえ、レンタル旧作売り場の見直しを実施し、粗利確保策に注力して参りましたが、書籍の定期購読獲得及び新作レンタルが低迷したこともあり、売上高は低調に推移致しました。

この結果、当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高502百万円（前年同期比5.7%減）、セグメント利益（営業利益）は1百万円（前年同期比45.6%減）となっております。

##### [アップガレージ]

アップガレージ事業におきましては、長期在庫の拡販及び中古カー用品の買取を強化し欠品対策に注力して参りましたが、中古夏タイヤの販売が低迷し、売上高は低調に推移致しました。

この結果、当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高228百万円（前年同期比10.4%減）、セグメント利益（営業利益）は20百万円（前年同期比22.2%減）となっております。

##### [その他]

ダイソー事業、保険事業並びに不動産賃貸事業におきましては、売上高は概ね横ばいで推移致しました。

自遊空間事業、カーセブン事業並びに宝くじ事業におきましては、売上高は低調に推移致しました。

この結果、当第1四半期累計期間の経営成績は、売上高207百万円（前年同期比1.8%減）、セグメント利益（営業利益）は21百万円（前年同期比9.8%減）となっております。

## 財政状態の状況

### 〔資産〕

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は279百万円減少し、6,890百万円（前事業年度末7,169百万円）となっております。これは主に、現金及び預金が387百万円増加したものの、売掛金が151百万円、商品が171百万円及び未収入金（その他の流動資産）が332百万円減少したことによるものであります。

また、固定資産の残高は274百万円増加し、7,167百万円（前事業年度末6,893百万円）となっております。これは主に、出店予定地の建設に伴う建設仮勘定（その他の有形固定資産）が336百万円増加したことによるものであります。

この結果、資産合計残高は14,058百万円（前事業年度末14,063百万円）となっております。

### 〔負債〕

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は284百万円減少し、5,186百万円（前事業年度末5,470百万円）となっております。これは主に、短期借入金が300百万円増加したものの、買掛金が382百万円及び未払法人税等が289百万円減少したことによるものであります。

また、当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は278百万円増加し、2,527百万円（前事業年度末2,249百万円）となっております。これは主に、長期借入金が250百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計残高は7,714百万円（前事業年度末7,720百万円）となっております。

### 〔純資産〕

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は1百万円増加し、6,344百万円（前事業年度末6,343百万円）となっております。これは主に、四半期純利益を74百万円計上並びに剰余金の配当を70百万円支払ったことによるものであります。

## (2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,275,500	7,275,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。また、1単元の株式数は100株であります。
計	7,275,500	7,275,500	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日	-	7,275,500	-	1,910,645	-	500,645

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 220,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,053,700	70,537	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 1,800	-	-
発行済株式総数	7,275,500	-	-
総株主の議決権	-	70,537	-

【自己株式等】

2019年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ホットマン	宮城県仙台市太白区西多賀四丁目4番17号	220,000	-	220,000	3.02
計	-	220,000	-	220,000	3.02

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2019年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	974,999	1,362,264
売掛金	578,285	426,786
商品	4,965,560	4,794,033
貯蔵品	2,038	1,800
その他	649,187	305,786
貸倒引当金	104	91
流動資産合計	7,169,966	6,890,580
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,997,065	1,968,430
土地	1,801,214	1,801,214
その他(純額)	485,714	826,522
有形固定資産合計	4,283,994	4,596,168
無形固定資産	15,366	14,734
投資その他の資産	2,594,121	2,557,067
固定資産合計	6,893,482	7,167,970
資産合計	14,063,449	14,058,551
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,075,421	692,907
短期借入金	2,350,000	2,650,000
1年内返済予定の長期借入金	622,512	697,462
未払法人税等	318,859	29,023
賞与引当金	91,000	15,583
ポイント引当金	258,149	268,848
その他	754,904	832,362
流動負債合計	5,470,845	5,186,187
固定負債		
長期借入金	630,012	880,013
退職給付引当金	1,153,566	1,185,525
役員退職慰労引当金	145,699	146,792
資産除去債務	152,255	153,041
その他	167,987	162,585
固定負債合計	2,249,519	2,527,957
負債合計	7,720,365	7,714,145
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,910,645	1,910,645
資本剰余金	500,645	500,645
利益剰余金	3,908,204	3,911,662
自己株式	108,380	108,380
株主資本合計	6,211,114	6,214,573
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	131,969	129,832
評価・換算差額等合計	131,969	129,832
純資産合計	6,343,084	6,344,406
負債純資産合計	14,063,449	14,058,551



(2)【四半期損益計算書】  
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	4,769,166	4,867,400
売上原価	2,573,881	2,591,644
売上総利益	2,195,284	2,275,755
販売費及び一般管理費	2,101,212	2,180,236
営業利益	94,072	95,518
営業外収益		
受取配当金	4,606	6,257
受取手数料	7,017	7,114
産業廃棄物収入	7,159	4,690
その他	7,410	7,910
営業外収益合計	26,194	25,973
営業外費用		
支払利息	7,627	6,525
その他	460	426
営業外費用合計	8,088	6,951
経常利益	112,178	114,540
特別損失		
固定資産除却損	523	30
特別損失合計	523	30
税引前四半期純利益	111,655	114,509
法人税、住民税及び事業税	9,843	10,815
法人税等調整額	35,304	29,680
法人税等合計	45,147	40,496
四半期純利益	66,507	74,013

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

当社の主たる事業のイエローハット事業において、主力商品であるスタッドレスタイヤの販売時期が11月から12月に集中するため、通常第3四半期会計期間の売上高は、他の四半期会計期間の売上高と比べ著しく高くなっております。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)の償却額は、次の通りであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	74,947千円	70,843千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月25日 取締役会	普通株式	70,555	10	2018年3月31日	2018年6月8日	利益剰余金

当第1四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月23日 取締役会	普通株式	70,555	10	2019年3月31日	2019年6月7日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	イエロー ハット	TSUTAYA	アップ ガレージ	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	3,769,247	533,081	255,317	4,557,646	211,520	4,769,166	-	4,769,166
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	8,385	395	116	8,897	2,892	11,789	11,789	-
計	3,777,633	533,476	255,433	4,566,543	214,412	4,780,956	11,789	4,769,166
セグメント利益	152,542	2,433	26,373	181,350	23,915	205,265	111,192	94,072

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイソー事業、自遊空間事業及び保険収入等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 111,192千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	イエロー ハット	TSUTAYA	アップ ガレージ	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	3,928,091	502,855	228,656	4,659,603	207,796	4,867,400	-	4,867,400
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	4,674	422	130	5,227	2,653	7,881	7,881	-
計	3,932,765	503,278	228,786	4,664,831	210,450	4,875,281	7,881	4,867,400
セグメント利益	166,127	1,324	20,516	187,968	21,560	209,529	114,010	95,518

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ダイソー事業、自遊空間事業及び保険収入等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 114,010千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次の通りであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	9.43円	10.49円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	66,507	74,013
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	66,507	74,013
普通株式の期中平均株式数(株)	7,055,500	7,055,500

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2019年5月23日開催の取締役会において、次の通り剰余金の配当を行うことを決議致しました。

(イ) 配当金の総額.....70,555千円

(ロ) 1株当たりの金額.....10円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年6月7日

(注) 2019年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月9日

株式会社ホットマン

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 今江 光彦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 木村 大輔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ホットマンの2019年4月1日から2020年3月31日までの第46期事業年度の第1四半期会計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（2019年4月1日から2019年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ホットマンの2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。